記入例

日本社会福祉士会作成シート・書式２

氏名：

地域変革のためのヒアリングシート（利用者から見た地域の状況）

【１】利用者が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について

組織の名前は？	水前寺町ボランティアセンター 水前寺吹奏楽団
どの程度の「参加」か？	共に週一回、Ａ氏と雑談をする。町のイベント（祭りや募金活動）に参加。
参加しやすい条件整備がなされているか？	Ａ氏がいつも笑顔で窓口にいるので生きやすい。 楽団においては、建物がバリアフリーではない。
どういう条件が整えば、もっと参加しやすくなるか？	Ａ氏以外の本人への協力者を増やす。 楽団においても同様

＜注＞自治会・趣味グループ・学校・ファンクラブ・生涯学習グループ・
各種〈連続〉講座・ボランティアグループ

【２】利用者の交友相手〈友達〉について

どんな関係の人	現在利用中の〇市職業訓練センターの利用者
利用者の資源になりうるか	なり得る
どうしたら資源になるか	現段階において、ＰＣを教え合う友人であるが、本人にとっては人生の先輩なので様々な人生経験も含めて教わることができる。

＜注＞井戸端会議の相手・同窓生・趣味友達・講座友達・級友・

【３】利用者が所属している当事者組織について

どんな組織に属しているか	職業訓練センター
利用者同士の問題解決のために十分機能しているか	している
もっと機能するためには、どういう支援が必要か	訓練生同士のコミュニケーションがうまくいっているか、お互い技術がみについているか配慮。
利用者はどんな役割を果したらいいか	お互いにＰＣの技術について教え合ったり、共に学ぶ仲間として
その組織は利用者にとってどんな意味があるか	ＰＣの技術習得、就職を目指す仲間

【４】利用者に（福祉的に）関わっている人や組織・企業〈商店〉・隣人について

どんな関わりをしてくれているか	ボランティアセンターＡ氏が、紹介してくれた喫茶店〇〇が本人の行きつけの喫茶店になっている。
もっとすすんだ関わりをしてもらうには、どんな条件が整備されたらいいのか	店には、段差等があり利用しづらい面があるものの、マスターの息子が知的障がいをもっており、障がい者についての理解はある。
こちらとしてどんな努力をしたらいいか〈どんな仕掛けを施したらいいか〉	本人が来た時の段差昇降介助（現状で来ているようである）本人と店をつないだことで、十分仕掛けとなり得ている。

＜注＞行きつけの商店の主が、店頭で親切にしてくれる程度でもいい。

【５】利用者が見込んでいる相手〈相談に乗ってくれたり、困った時助けてくれる人〉
行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

その利用者が見込む相手はどういう条件があるのか	①主治医、②脳性まひ児親の会のリハ（動作法）←現状、本人が体調を崩したときの関わり
利用者が見込んでいる人が、見込まれたことをきちんとしているか。	①突発的な病気（風邪、腰痛など）の処置はする。理学療法の実施については消極的 ②回数は少ないが、継続的にリハは行えている。
していないとすれば、それはなぜか	①本人の病気については、症状は固定したものとして捉えているので②つながりあり。
見込まれたことをその人が実行するには、どういう働き掛けが必要なのか。	①医師としての考えてを変化させることは現状では困難である。 ②他に、リハ（動作法）を実施しているところに行き、受ける回数を増やす。

＜注＞なぜその人を見込んでいるのか。

【６】利用者の親族で、利用者が頼みにしている相手について

その相手は、利用者の期待に添うように行動しているか	母（両親）
していないとすればそれはなぜか	しているが、認知症の祖母の介護も抱えており、無理をしているように思うことがある。
どうしたら期待に添うように行動するようになるか	祖母の介護負担を減らすため、デイサービスやショートステイなどを利用。宅配食を利用するなど。
他の親族はなぜ頼りにならないのか	本人の兄は、自身の家庭があり、共働きのため、家にいることは少ないので関わりが少ない。
どうしたらもっと頼りになる親族になるのか。	本人自身が休日などに顔を出したり、積極的にコミュニケーションをとる。

【７】利用者の〈これから戻る〉近隣は、利用者にとっていい近隣か。

どのように頼りになるか	元々、本人が生まれ育った地域であり、本人の顔見知りである。
どのように頼りにならないか	近所付き合いは両親を通したものであり、本人が主になっていない。
どんな人材が存在しているか〈世話焼き・口利き・など〉	隣のあばちゃんが良く顔を見せたときには本人と話す。 区長は、本人の小学校の友人の父である。
もっと頼りになる近隣にするにはどうしたらいいか	両親を抜きにして、本人が近所に積極的に顔を出す。

【８】利用者の周囲で、活用できそうな地域資源はあるか。

どんな資源が分布しているか〈いわゆるボランティアや民生委員、福祉推進員だけでなく、世話焼きさんや、保健福祉のプロ、各種公共機関なども〉	①社会福祉協議会 ②役場の福祉課 ③ハローワーク
それぞれどんな資源性を持っているか	①地域のデイサービス、イベント、企画。祖母の介護保険サービス調整 ②本人の福祉サービス利用 ③再就職に向けた支援
それぞれ利用者にどんな資源になりうると思うか	①本人の人の役に立ちたいという想いの実現、近所の人との交流
それらの資源を利用者に振り向けるにはどんな仕掛けが必要か	本人への情報提供のみ 利用や参加は本人が決める
それぞれがより強力な資源になるには、どんな仕掛けが必要か	本人が今、何を考え、何を望んでいるかを把握し、情報、・選択肢を持っていく。

【９】利用者にとって「隠れた資源」となっているもの〈利用者を元気にさせているもの〉について

あるとすればそれは何か	障がい者水泳教室 本人は、水泳を趣味としているが、一人で泳ぐことも多いが、不定期で教室があり、泳いだ後の茶話会の実施などもある。

＜注＞特に動植物や自然環境、日常生活の各種グッズ、遊び・スポーツなど、人間以外の資源に着目。

【10】利用者は地域に対して、どんな資源性を有しているか。

資源性とそれが機能している対象を羅列	音楽ボランティア…地域の敬老会で吹いてみる（居住地域において）近所付き合いの促進
利用者が頼りにしている相手に対して、どんな資源性を発揮しているか	Ａ氏を通じて、様々なボランティア活動に参加できている。
利用者が潜在的に有している資源性は何と何か	近所でのボランティア活動を行うことで、障がいを持っている方の見方・接し方の理解が進む。
それぞれ誰に対して資源となりうるか	家族に対しても地域の人に対しても（本人自身も）地域の役に立っているという認識ができる。
利用者の資源力を増強させるには、どんな支援が必要か	活動を通した人間関係をそのまま地域で暮らすうえで生かすことの支援

＜注＞隣人の相談相手、同じハンディを持った人の相談相手、趣味グループなどで、ユニークな働きをしている、など。

【11】利用者にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか。

これまで挙げられた資源相互の連絡はどの程度なされているようか。お互い〈資源同士〉、その利用者に関わっていることをどの程度承知しているようであるか	現在は、各々が連絡を取るということはされていないようであるが、同じ町内であるボランティアセンター・社会福祉協議会および担当福祉課間においては、本人の支援の連携は取れる。
もっときちんとネットワークができるためには、どんな支援が必要か	本人と家族に対し、困ったときの連絡先を一覧にして提示する。支援者が繋ぐ役割を担う。

【12】利用者の自宅〈居住場所〉は、

資源を発掘・活用するのにどのように適しているか、または適していないか	昔ながらの農村地帯であるため、都会化しておらず、地域のつながりはつよい。資源自体は限られているが適している。
より多くの資源を発掘・活用するために、どんな環境整備が必要か。〈利用者のセルフケアマネジメント能力の開発。自宅の改造。支援者の確保。資金援助など〉	本人が地域の中で積極的に活動していくためには、何らかの役割を任せている。 その中で、出来ること、出来ないことを分けることとなるが、支援者・家族は見守る姿勢で出来ることを増やす。

【13】利用者のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう。

セルフケアマネジメント能力の評価	穏やかな性格である。何でも時間はかかるがやり通す。車の免許を持っている。所属団体が多い。（頼まれたら断らない、断れない？）

＜注＞人に好かれる〈人が寄って来る〉・自分も人が好き・人の好き嫌いがない・困ったら困ったと言える・だれにも気軽に助けを求めることができる・助け手を上手に探し出す・お礼の言い方・仕方も上手・人間関係に長けている。自分もお返しができる・自分の〈他人に〉できることを上手に生かす・自分の意思をきちんと伝えられる・コミュニケーション手段を持っているし使える・どこへでも気軽に出かける・人を呼び込む場〈空間〉を確保している・セルフケアマネジメントのための支援者〈秘書？〉を確保している